

2025年3月期 決算説明会での主な質疑応答

日時 2025年5月12日 11:00-12:00(日本時間)
場所 オンライン
登壇者 専務執行役員(上席) 西 美純
常務執行役員(上席) 山崎 宏信

主な質疑

質問: 価格改定について、現状の進捗や今後の対応をどう考えていますか？

回答: 段ボール製品の価格改定交渉はほぼ完了しており、当初予定の半分弱の幅は浸透しました。経済状況を注視しながら、今後の価格改定も検討してまいります。社会情勢もあり、固定費上昇分の転嫁についてはご理解をいただいていると認識しています。

質問: フリー・キャッシュ・フローについて、設備投資見直しの考えはありますか？

回答: 現時点で進行中の設備投資は計画通り進めておりますが、新規のものについては外部環境の成り行きも考慮していく必要があると考えています。

質問: 設備投資計画の内訳について教えてください。

回答: 当期に完工を計画している主なものは、当社においては東京工場の建屋増築棟(約70億円)、金津工場の燃料転換(約65億円)、段ボール・紙器工場の暑さ対策(約25億円)、清水工場リニューアル(約45億円)、トライコー社(ドイツ)においてはゴッホ工場(約250億円)があります。これらは全て総額での見込みです。なお、既存設備の維持・更新には年間で500~600億円を要します。

質問: 海外関連事業が今期減益の見通しとなっている要因は何ですか？

回答: ヨーロッパの経済悪化が主な要因です。ただし、中国では一部改善を見込んでおります。

質問: 海外軟包装のマイナス見通しの要因は何ですか？

回答: シンガポールの商流が国内に移行したため、国内軟包装セグメントとの入り絡りが発生します。

質問: 国内段ボールの数量見通しはどうか？

回答: 青果物を含めた食品関係が回復基調にあり、前年同期比 2%増を計画しております。

質問: 段ボール古紙の価格見通しはどうか？

回答: 昨年は全般的に価格が上昇していましたが、期末に若干低下しました。今期は前期末の水準で推移することを予想の前提としています。

質問: 今期の予想営業利益の水準の高低をどう捉えていますか？

回答: 最低ラインの認識です。利益率 4%は死守したいと考えております。

本文書に含まれる情報の全部又は一部を無断で複製、転載することをご遠慮ください。

本資料に含まれる事業戦略や業績予想等に関する内容については、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。記載された業績予想数値等は、将来の計画に関して実現を保証するものではありません。